

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書

腸内細菌プロジェクト（総括）

研究分担者 安藤 朗 滋賀医科大学消化器内科 教授

研究要旨：炎症性腸疾患における腸内細菌叢の変化（Dysbiosis）が明らかにされてきたが、その変化の是正を目指した治療法、特に、糞便微生物移植法（Fecal microbial transplantation: FMT）の有用性、安全性について検討を行った。

炎症性腸疾患、特に潰瘍性大腸炎（ulcerative colitis: UC）に対する糞便微生物移植法（FMT）の現況について調査した。該当施設は、慶応義塾大学医学部消化器内科、滋賀医科大学消化器内科、順天堂大学消化器内科の3施設であった。慶応大学、滋賀医科大学は前処置としての抗生物質の投与はなしで、順天堂大学は抗生剤の投与後 FMT を行うというプロトコールであった。各施設のプロトコールが異なることから、その効果の判定は困難であったが、安全性についてはどの施設でも問題はなかったとの結論であった。有効性については、プロトコールの違いから一定の結論は得られなかった。今後の課題としては、プロトコールの統一であり、特に、抗生剤の前投与の必要性についてはそのレジメを含めて検討が必要と考えられた。また、ドナーを親族に限るかどうか、適応とする患者の治療歴、重症度の問題、FMT の回数など、今後検討すべき課題も明かとなった。次年度では、他施設共同研究が可能かどうかさらなる検討を予定している。